



「世代間交流」

近年、家族形態の変化や生活形態の都市化といった様々な要因から、家庭や地域における世代間のつながりが希薄化しています。かつては、3世代や4世代といった家族構成、近所のだれもが顔見知りで、地域の子どもは地域ぐるみで面倒を見るといったことが普通のことでした。家庭や地域の交流の中で、自然と世代間での交流が成り立ち、こうした交流の中から、子ども達は様々な世代の人たちから様々なことを学んでいました。

川本地区では、以前より世代間交流事業として、地域ぐるみで子ども達に様々な伝承事業を伝えています。地域の子どもは地域で育てるという世代間交流が現在も引き継がれています。

「まゆ玉づくり」

※まゆ玉づくりは、丸めた餅や団子を水木の枝に差し無病息災を祈願した伝統行事です。



川本公民館において、子供たちに郷土への関心と、理解を高めることを趣旨とした世代間交流が行われました。その内容について紹介します。

① まゆ玉づくりの経緯について



平成7年に、もくせい館が竣工したのを機に、(故) 神山道史氏(当時の教育長)の「3世代を集めた交流活動をやろう。」という発案で、世代間交流と伝統文化の伝承を期して菅沼地区を中心に始めました。3世代にわたる活動の継続・発展を目指し、世代間交流活動実行委員会が組織され、既存団体との連携を図りながら川本地域全体に広げるとともに組織的・計画的活動に発展させてきました。「まゆ玉づくり」は年間を通した世代間交流活動のひとつであり、ひな祭りや七夕まつり、十日夜なども行われています。

② まゆ玉づくり

飾り付けの様子



まゆ玉は「もち米」を使用して作成します。実行委員会が事前に攪拌機で餅を作り、繭玉をつくれるように準備します。子ども達には各班の班長(大人)がつき、形などについて指導を受けながら、子ども達も手際よく作成する姿が見受けられました。繭が出来上がると、いよいよ飾り付けです。ホールに設置された大きな「みずき」の枝々に子ども達の手で繭玉が飾られました。

③ 子ども達の声

- ・毎年楽しみにしてるんだ。もう3回来ちゃった。大きな水木に飾る時が楽しい。
- ・初めて来たけど、お餅も食べられるし、知らない事を教えてくれるから、楽しい。
- ・自分用にお餅や、まゆ玉飾りを貰えて嬉しい。

事前準備の様子

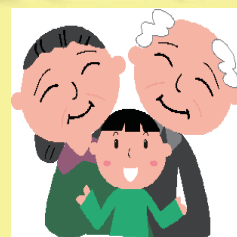


④ 実行委員会の声

多くの方々の協力を得て、世代間交流を実施できることは大変喜ばしいと思っています。3世代の交流を深めることや文化の継承活動を通して、川本地域への地元愛が高まり、温かい街づくりに繋がってくれることを願っています。「子どもは地域で育てる」ということが、一般的に難しくなっていますが、先人たちが作ってくれたこの組織をさらに発展させ、文化の伝承を通して「川本の子だ!」と誇りを持ってもらえるように支援していきたいと思っています。子ども達が当日、楽しめるように事前準備は大変ですが、楽しみにしてくれている子供も増え、喜んで参加している子ども達の笑顔を見ることが、何よりの楽しみです。



⑤ 活動組織(協力団体)



実行委員会がコーディネーター役を担い、福寿会・食生活改善推進委員会・日赤奉仕団・やまぶき会がそれぞれの催しごとに担当となり、小学校のPTA役員や子ども会役員と連携して実施されています。催しごとに準備会を開催し、組織的な活動が定着しています。「まゆ玉づくり」は、世代間交流実行委員会(小久保良一会長以下14名)、やまぶき会、PTA、子ども会地区役員、川本公民館が担当しました。

公民館長の声

世代間交流活動実行委員会の方々を中心に各団体との連携が図られており、まゆ玉づくりの他にも恒例となっている行事が複数あります。20年の歴史ある活動で、地域の先人たちの思いが詰まった大変、有意義な行事で毎年大盛況です。時代とともに地域性も変化してきているが、これらの行事のおかげで川本地域のつながりは深められています。熱意のある方々と共に地域活動の拠点として公民館活動を展開できることに感謝するとともに、今後もこれからの伝承活動の継続に努めていきたいです。



まゆ玉づくりは、「無病息災」を願って行われるもので、参加者一人一人が自宅に持ち帰り、お供えできるようにしていました。川本地区における世代間交流事業は、地域の人々がふれあいを大切に、助け合い、励まし合う明るい地域を築いていくのではないのでしょうか。このような世代間交流が、今後も継続され、地域の文化が次世代に継承されていくことを願います。

ねんかん けんこう 1年間の健康をふりかえろう！

3月になり、学年の終わりが近づいてきました。1年のまとめをする大切な時期です。「学習」や「生活」の振り返りと同じように、「健康」についてもこの1年間のことを振り返ってみましょう。

チェックが少なかった人はたくさんつくように、チェックがついたところは、この先も継続し、心も体も元気な状態に整えておきましょう。

☐好き嫌いなく
なんでも食べた



☐毎日うんちが出た

☐むし歯など治療が
必要なものは治した



☐早ね早起きができた

☐外遊びや運動をした



☐食後の歯みがきをした

☐手洗い・うがいを
毎日した



しんねんどむ
新年度に向けて、健康な体作りを目指しましょう！

☐テレビやゲームは決められた時間
を守ってできた



親子で遊べる
ところ

み～つけた！



国道140号バイパス沿いにある「道の駅はなぞの」の隣に「ひだまりの公園」があります。園内には遊具や砂場、芝生広場、ボランティアの方々によって管理されている花壇などがあり、花や緑に触れながら楽しめる公園となっています。

また、ドッグランも整備されており、わんちゃんと一緒に楽しむこともできるようになっています。道の駅でのお買い物にあわせて、ピクニックや散歩など楽しんでみませんか。



わが園自慢

明戸保育園～祖父母会～

明戸保育園は、近隣の公民館や幼稚園、小・中学校との交流を積極的に行い、地域との連携を深めています。園内には、一時保育室や子育て支援センターも併設しており、地域の未就園・未就学児のお子さんを持つ親子の利用が多く、地域に根差した保育園となっています。



毎年秋には4・5歳児の祖父母を招待して、祖父母会を行います。今年度は、公民館の体育室をお借りして、ミニ運動会を開催しました。園児の自己紹介や歌、運動会の演技を間近で披露した後、全員でラジオ体操をしました。その後、クラス対抗の玉入れ競技を一緒にいき、園児も祖父母も張り切って参加しました。



祖父母会で、世代を越えて一緒に体を動かして楽しむ活動をすることで、普段とは違った祖父母や孫の一面を見つかることができます。その経験がお互いの喜びとなり、より一層親しみを持つことにつながります。

祖父母との楽しいひと時を過ごすことで、園児一人ひとりが身の回りの多くの人の豊かな愛情の中にいることを実感し、思いやりや人を大切にすることが育まれるよう、今後も継続して取り組みます。

<<祖父母の声>>

- ・孫の頑張る姿や、楽しそうに笑っている姿を見ることができて良かったです。
- ・体操や玉入れと一緒にできて子ども時代に戻った様で楽しかったです。

<<園児たちの声>>

- ・おじいちゃんおばあちゃんのラジオ体操が上手でカッコ良かったです。
- ・来てくれて、うれしかった。もっと一緒に遊びたかった。

子育てQ&A

Q. 娘は、以前は学校から帰るとすぐに宿題をやったのですが、最近はなかなかやろうとしません。また、お友達とも遊びたがらなくなりました。お手伝いを頼んでも面倒がって、後回しになりがちです。元気がないようで心配しています。(小2女子・母)

A. もしかするとお子さんは最近、なにか「うまくいかないな」と不安に感じることがあって、自信を失っているのかもしれませんが。自信のない時というのは、自分の悪いところに目が行ってしまい、いろいろなことへのやる気がなくなりがちです。ですから、お子さんが自分のよいところに気づけるよう、お母さんが伝えてあげられるといいでしょう。お子さんの普段の様子をよく見て、「よくがんばってるね」「とってもいい表情だね」と、声をかけてみてください。その時は喜んでるように見えなくとも、ほめられる言葉は、後から力になってきます。

また、学校や勉強、友達関係などのことについて、お母さんからさり気なく聞いてみることも大切です。お子さんは、不安に感じることにについて、どうしたらいいかわからないのかもしれませんが。話しやすい雰囲気、普段から作ってあげられるといいでしょう。

深谷市立教育研究所 学校福祉相談員 岡田まりあ

教育研究所では、お子さんの健やかな育ちを応援するため、ご家族やご本人との相談を行っています。

〒366-0823
深谷市本住町12-8
☎048-572-9456

まごころクイズ

今号で紹介した、ひだまりの公園はどこ地区にあるでしょうか。

① 大寄地区 ②：南地区 ③：岡部地区 ④：花園地区

はがきに、答え・〒住所・氏名・年齢・電話番号・ご意見や感想を明記の上、平成29年3月27日(月)(消印有効)までに下記のあて先へ。正解者の中から抽選で10名様に粗品を差し上げます。

あて先 〒366-0823 深谷市本住町17-3
深谷市教育委員会生涯学習スポーツ振興課「まごころ」担当へ
TEL 572-9581 FAX 574-5861